ならちゅうしん経営研究会　例会報告

第 401 回　研究会

日　時　令和 8 年 10 月 21 日(水)　午後 3 時 30 分　～　午後 5 時 00 分
場　所　レンゴー株式会社　和歌山工場
内　容　1部　工場見学
2 部　会社案内
営業部営業課　部長代理　雲岡　清文　氏
課長　星賀　大介　氏

今回はレンゴー株式会社和歌山工場を訪問し、工場見学ならびに会社概要や SDGs への取り組みについて説明を受けました。

1. 工場見学について

はじめに、工場内を見学させていただき、段ボールが製造されるまでの一連の工程について、担当者の方から丁寧に説明していただきました。原材料から製品へと形を変えていく工程を順追って理解することができ、普段、私たちが何気なく目にしている段ボールが、さまざまな工程を経て製造されていることを改めて認識しました。

また、工場内では一部の製造設備が実際に稼働している様子も見学することができ、製造現場の臨場感を直接感じる貴重な機会となりました。製品の安定供給を支える設備や製造工程を目の当たりにし、ものづくりの現場における技術力や生産管理の重要性について理解を深めることができました。

2. 会社の歴史と SDGs への取り組み

工場見学の後には、レンゴー株式会社の創業から現在に至るまでの会社の成り立ちや事業の歩みについて説明していただきました。段ボールを中心とした事業がどのように発展してきたのかを知ることで、私たちの生活や事業活動に欠かせない包装資材を支える企業としての役割を学ぶことができました。

さらに、SDGs への取り組みについても説明を受け、環境への配慮や持続可能な社会の実現に向けた企業活動について理解を深めました。企業経営においては、収益性や事業の成長だけでなく、環境や社会に対する責任を果たしながら、持続的に発展していく視点が重要であることを改めて感じました。

3. 質疑応答・意見交換

最後の質疑応答では、参加者から積極的な質問や意見が出されました。特に、段ボールは

多くの事業者にとって日常的に使用する身近な製品であることから、実際の事業活動に即した具体的な質問が多く寄せられました。例えば、段ボールの厚みや耐久性を高めるためにはどのような工夫が必要なのかといった質問があり、製品の特性や用途に応じた工夫について関心が集まりました。普段は完成品として使用することが多い段ボールについて、製造する側の視点から考えることで、製品への理解をより一層深めることができました。また、参加者それぞれが自身の事業との関わりを意識しながら質問する姿が見られ、単なる工場見学にとどまらず、経営者同士の学びや情報交換の場としても有意義な時間となりました。

4. まとめ

今回の例会では、工場見学を通じて製造現場への理解を深めるとともに、企業の歴史やSDGsへの取り組みについて学ぶことができました。特に、普段何気なく使用している段ボールにも、製造工程におけるさまざまな工夫や技術が詰まっていることを実感できた点は、大きな学びとなりました。

また、質疑応答では身近な製品を題材に具体的な意見交換が行われ、参加者にとって自社の事業や経営を見つめ直すきっかけにもなったと思います。

ご多忙の中、工場見学の受け入れから丁寧なご説明までご対応いただきましたレンゴー株式会社和歌山工場の皆様に、心より御礼申し上げます。

今回の学びを今後の事業活動や経営に生かすとともに、引き続き、こうした見学や交流を通じて会員相互の研鑽を深めてまいりたいと思います。

レンゴー株式会社ご講演



山田会長ご挨拶

